

高知県新観光開発プロジェクト 浦戸湾「維新の港」プロジェクトに関する研究（2）

109500 山本健太

高知工科大学工学部社会システム工学科

現在、高知県の経済状況は衰退傾向にあり、その問題の一つとして観光事業の低迷があげられます。高知県の観光事業は基軸となるコンセプトや観光地相互の関連性が希薄であることが低迷の理由であると考えられます。本研究では、高知県の観光事業の活性化を目的として、浦戸湾を中心とする観光資源を見直して、幕末から明治にかけての土佐人が活躍した歴史をコンセプトとして新たな観光資源を作るプロジェクトを提案する。

Key Words : 浦戸湾、水上タクシー、帆船

1. 高知県の観光事業の現状

高知県全域の観光地は、龍河洞（土佐山田町）、アンパンマンミュージアム（香北町）、天狗高原（津野町）などがあり、高知市内の観光地は桂浜、高知城懐徳館、牧野植物園などがあげられる。

高知の観光ガイドよさこいネットの調べでは、高知県主要観光施設の利用状況は、表-1 に示すような結果結果数値である。

施設名称	18年(人)	19年(人)
高知城懐徳館	368,930	230,806
アンパンマンミュージアム	201,905	182,218
高知県立美術館	140,497	160,127
高知県立のいち動物公園	152,175	151,696
高知県立牧野植物園	125,008	135,530
合計	988,515	860,377

表-1

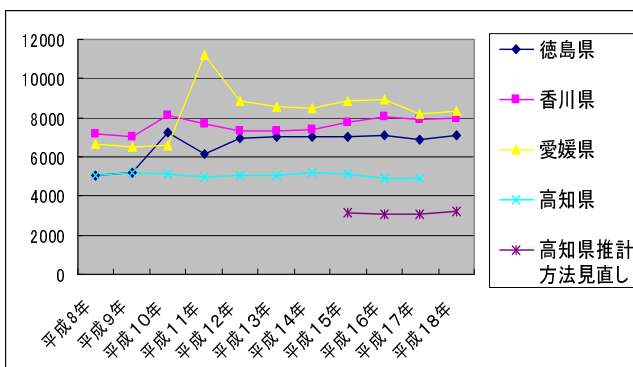


表-2

表-2 は四国4県の県外観光客数推移である。平成10年、明石海峡大橋開通や平成11年、しまなみ海道開通により、高知県を除く3県の県外観光客は増加している。しかし、高知県は四国4県の内でも最下位に位置している。

2. 問題点の分析

2.1 基軸となるコンセプト

高知県の主要観光施設の利用状況を見ると、高知城の次に来客数が多いのはアンパンマンミュージアムとなっている。これは他の観光施設が観光のコンセプトの設定が弱いからだと考えられる。つまり、観光事業を考える場合、高知県に県外客を呼び込み何を売りとしたコンセプトで対応するのかが、重要になってくる。

2.2 観光地相互の関連性

高知市の観光産業低迷の別の理由として、主要な観光施設同士が離れ離れの位置にあり、観光地と観光地の関連性も薄い交通機関の利用が不便であるなど、整備が不十分なままとなっていることが挙げられる。

高知市は多くの有名な歴史や文化、またそれらを記念した施設等がある。浦戸湾周辺にたくさんの要素があるが、観光地相互のつながりがほとんどない。交通機関整備の不十分さなどにより、高知城観光客はひろめ市場で昼食を取り、日曜市を回るなどといった最初から組まれたツアー企画でないと高知市を見て回れないのが現状である。そのため宿泊客の低下などにもつながってきている。



浦戸湾



桂浜

3. 国内外の観光地と浦戸湾の調査

3.1 ボルチモア

アメリカのメリーランド州にあるボルチモアは多くのキャラクター発祥の地であると共に、多数の歴史的な観光スポットがある古い都市である。1960年代から施設の老朽化や産業の停滞などにより一時は町全体がスラム化し、治安の悪化が進んだ。

だが、30年間をかけ都市中心部の再開発を実施し、大きなエンターテイメント施設やショッピング地区等の建設が進められ、治安は回復した。また、ファザード事業や施設を繋ぐ交通手段として水上タクシーの運行事業を行っている。



出展：メリーランド州ボルチモア-USA Tourist

3.2 港湾都市の観光プロジェクトに関する調査

長崎市(長崎港)、ハウステンボス

港湾都市の観光プロジェクトの事例調査を行う目的で2008年11月末に長崎市(長崎港)とハウステンボスの調査を行った。長崎市は歴史と文化の地であり観光事業が盛んである。交通手段もよく、コミュニティバスや路面電車の一日乗車券などがあり、歩いて観光地を回るのは不便がない。長崎港では出島ワーフや水辺の森公園などが整備されており遊歩できる。

また、佐世保市にあるハウステンボスは、オランダ中心のヨーロッパの街並みが再現されており、テーマパークとして認知度の高い観光地である。敷地内にはカナルクルーザーと呼ばれる遊覧船が水上タクシーの役割も持っている。約12億円の費用をかけた帆船の観光丸で半時間くらいの小航海を体験することができる。

高知の浦戸湾に比べ、長崎港は造船所や商業施設、飲食店、公園などはっきり地域区別がされている。ハウステンボスはヨーロッパをコンセプトとし、統一された街並みが特徴であり、観光丸が果たす役割も大きい。

長崎の港湾都市を参考に浦戸湾に緑地公園、飲食

店、帆船を浮かべるなどの企画を用いるとどうなるのか。また、造船所の跡地を再利用し何かできないか。など浦戸湾の観光資源の調査と比較しプロジェクトに活用できるものを検討する。



長崎港出島ワーフ



ハウステンボス

3.3 浦戸湾観光資源調査



浦戸湾

浦戸湾観光地開発として主要となる場所

- ・種崎千松公園
- ・新山本造船
- ・弘化台中央卸売市場
- ・ワンパークこうち
- ・続島、衣ヶ島、玉島
- ・桂浜

をバイク、車で何度も視察。

4. コンセプト（基軸づくり）

明治維新の基礎を作った坂本龍馬や武市半平太などが活躍した時代、幕末に遡り、歴史と文化のまちづくりとして「幕末の土佐の町」をイメージ。

プロジェクトを進めるに当たり、以下のことが重要になる。

- ・文明ではなく文化を見せる観光開発として、自然との調和をはかり、食文化を貴重とするスローフードを大々的に実施。
- ・コストのかからない観光地を目的とし、県民が主体となりプロジェクトを動かす。

そして本研究の最重要コンセプトとなるのは

- ・浦戸湾内の観光スポットの整備。
 - ・湾に幕末当時の帆船を浮かべる。
 - ・廃造船所を帆船博物館にする。
- である。

5. 浦戸湾観光地開発プロジェクト

国交省・高知県・高知市の既存計画の調査を実施した。だが国交省・県・市共に、浦戸湾の具体的観光資源化計画はなかった。

そこで“維新の港”計画を持ちかけると関心は高かったため協力体制を構築できると判断した。

そして国交省・県・市の既存計画を考慮にしてポルティモアの水上タクシーの事例や長崎県の観光事業などを参考に浦戸湾岸で行った現地調査を参照した“維新の港”計画を進めることにした。

5.1 主要観光施設計画



種崎千松公園



弘化台中央卸売市場



ワンパークこうち前



続島、衣ヶ島、玉島

(1) 種崎千松公園

浦戸湾への海からの入口に面している千松公園は、太平洋が一望できる。夏になると海水浴場としても開放されている。だが、年々荒れてきており、ホームレスが多く住みついていたり、野良猫が繁殖している。

イメージとして、長崎市の水辺の森公園や香南市のヤ・シィパークのようなオープンスペースを計画。

(2) 弘化台中央卸売市場

この市場、早朝は賑わっているが昼前から人の流れがなくなる。そこで、市場内に帯屋町の端にあるひろめ市場をイメージして昼専用の飲食店を計画。

(3) ワンパークこうち前

ワンパークこうち前の港には、平成17年6月30日まで大阪高知特急フェリーが発着していたが、現在はその運航が終了し、ふ頭用地となっている場所がある。その場所に、長崎市の出島ワーフを参考として、幕末の土佐をコンセプトに、「龍馬ワーフ」とする。統一した街並みを再現し飲食店を計画。

(4) 続島、衣ヶ島、玉島

浦戸湾内には小島がたくさんある。その中でも、歴史ある島が並んでいる続島、衣ヶ島、玉島付近に海上レストランを計画。

5.2 水上タクシーの運営

浦戸湾を観光地開発するにあたって重要となる一つが水上タクシーの運営である。

水上タクシーの運営に関しては本研究を同時進行している前田遼祐が詳細を記している。

5.3 浦戸湾に帆船を浮かべる

事例調査をしたポルチモアとハウステンボスには海に復元帆船が浮かべられている。浦戸湾を幕末・明治維新の雰囲気漂うものにするためには、当時の帆船を復元し浮かべる事が重要となってくる。

復元帆船に関する調査と問題点

(1) ハウステンボスの保有している観光丸は復元費用約12億円が掛け再現された帆船であり、咸臨丸は2003年までリース契約していたが、年間1億円のリース料のためリース契約解除をしている。

歴史的価値を持つ帆船を復元するためには費用が大きい。このため出来れば、既存帆船を購入やレンタルすることが出来ればよいのだが、観光丸はハウステンボスの主要観光資源であり、これを借り受けることは難しい。咸臨丸は外洋航海機能をもつ本格的復元帆船であったが、2005年にマレーシアに売却され、練習船として用いられている。もしこの船が買い戻し可能であれば、浦戸湾維新の港プロジェクトの柱となりうる。

ハウステンボスー観光丸の概要

全長：65.80m
全幅：14.50m
喫水：4.2m
メインマストの高さ：32m
総t数：353t
スピード：10ノット
乗船定員：300名
動力：帆走、スクリュー機走、パドルによる機走



ハウステンボスー観光丸

(2) 「土佐維新の港」に浮かべる帆船として、土佐藩の所有していた帆船や海援隊(亀山社中)が所有していた帆船を考え、復元できないかと考えた。しかし、当時の帆船のほとんどが現物(実物)買い取りであったようで、国内での設計図等の調査は難航している。

幕末の土佐藩が保有していた西洋式帆船は以下のものが記録として残っている。

船名(原名)	船質	総トン数	建造地・年	購入先・価格	年・受領地
南海丸 (Shanghai)	鉄製 汽船	412 トン	英国 1856	ウイルキンソン 11万5千ドル	1863 年 長崎
胡蝶丸 (Fohkien)	鉄製 外輪 汽船	146 トン	英国 1863	Bordwin 7万ドル	1866 年 長崎
夕顔 (Shooeyleen)	鉄製 汽船	659 トン	英国 1863	Alt & Co 1万5千5百ドル	1867 年 長崎
横笛(セイボ ルン)	木製 スク ーナ ー型 帆船	265 トン		1万7千 ドル	1867 年 長崎
羽衣(カッチフ イルチーフ)	木製 スク ーナ ー型 帆船	186 トン	英国 1860	1万3千 5百ドル	1867 年 長崎
南海船 (Nankai)	鉄製 汽船	140 トン	上海 1866	T.Glover 7千5百 ドル	1867 年 長崎
乙女(Osaka)	木製 パー ク型 帆船	386 トン	NewYork 1862	1万7千 ドル	1867 年 長崎
蜻蛉 (Spanky)	鉄製 汽船		英国 1860		1866 年 長崎
紅葉賀 (Nepaul)	鉄製 汽船	796 トン 541 純 トン	London 1859	Alt & Co 1万5千 ドル	1867 年 長崎
空蟬丸 (China)	汽船	146 純 トン	英国 1862		1866 年 長崎

帆船を浮かべる対応策として類似帆船の設計図を基

に復元や同形の既存帆船の購入などがある。

(3) 復元帆船の係留場所と隻数

- ・龍馬ワーフを計画予定のワンパークこうち前の海に2隻。
- ・帆船模型博物館を計画予定の新山本造船所前の海に1隻。

5.4 帆船模型博物館

高知市種崎にある新山本造船所は現在、廃工場となっている。その跡地を利用し、国内外にいる帆船模型愛好者にブースを貸し出し、制作した帆船模型を展示するフロアを設ける計画。

そこで、日本帆船模型同好会協議会の各地の同好会の方々にアンケート調査を行ったが集計があまり取れなかったが一部からは賛同の声が多かった。そのため今後各団体にアプローチを続け、帆船博物館の需要を出していきたいと考えている。

6. まとめ

浦戸湾を土佐が一番輝いていた幕末・明治維新の時代をコンセプトとして掲げ、高知県の低迷している観光地の新開発に向けた「維新の港」プロジェクト。そのプロジェクトの重要項目として主要観光施設の企画と基軸となるコンセプトと交通機関の改善である。

まず主要観光施設の企画だが、コンセプトを支えるものとして帆船を浮かべることと、帆船模型博物館が重要になる。そして、交通機関の改善として水上タクシーを運営することで潤滑にプロジェクトを動かすことが出来る。

早期実施プロジェクトとして、主要観光施設計画の増築、水上タクシー運行計画、浦戸湾に関する帆船調査。また将来検討プロジェクトとして、空港から浦戸湾までの連絡船、浦戸湾と五台山の相互関連、四国4県の連携を促進をする必要がある。

また今後これらを、国交省、県、市にプロジェクトの検討を薦めていく必要がある。

参考文献

- ・ハウステンボス
<http://www.huistenbosch.co.jp/>
- ・The BOLTIMORE WATER TAXI
<http://www.thewatertaxi.com/>
- ・高知県庁
<http://www.pref.kochi.jp/>
- ・長崎市観光
<http://www.at-nagasaki.jp/>
- ・帆船リスト
<http://members.at.infoseek.co.jp/funadamasii/bakufu.htm>
- ・高知の観光ガイドよさこいネット
<http://www.attaka.or.jp/>